

学習内容の整理

1 人間とは何か

- (1)矛盾を抱えた存在…人間は動物的な側面と神的な側面をあわせ持つ
→〔①〕は、人間を「天使にも悪魔にもなりうる存在」とよんだ
- (2)人間の定義…人間はさまざまな角度から定義されてきた

〔②〕	知恵のある 英知人 という意味
ホモ=レリギオース	宗教という文化を持つ 宗教人 という意味
〔③〕	道具を使ってものを生産する 工作人 という意味 (フランスの哲学者〔⑤〕のことば)
ホモ=ルーデンス	「遊び」から文化を創造する 遊戯人 という意味 (オランダの歴史学者〔⑥〕のことば)
〔④〕	言語や記号を使う動物という意味 (ドイツの哲学者カッシーラーのことば)

2 青年期の意義と課題

- (1)青年期の意義
青年期…児童期の次に位置し、成人期への準備期間にあたる時期
→社会的な発展過程のなかで発達段階の一つとして認められるようになった。かつて子どもは何らかの〔⑦〕(イニシエーション)をへて、いきなり大人の仲間入りをしていた
→アメリカの文化人類学者〔⑧〕によると、サモア諸島のようなどころでは、青年期特有の不応行動や反抗などは認められなかったという
- (2)青年期の特徴
- a. 身体的特徴…性ホルモンの分泌が増加→〔⑨〕(変声・精通・月経などの発現)
- b. 精神的特徴…論理的思考力の発達と「もう子どもではない」という自己意識の高まり
- ・〔⑩〕…**思春期**における自己意識の高まりが親や大人に感情的な反発をさせる
 - ・〔⑪〕…親や大人からの心理的自立(アメリカの心理学者**ホリングワース**のことば)
 - ・〔⑫〕…「われわれはいわば、二度生まれる。一度は生存するため、二度目は生きるために」(フランスの思想家〔⑬〕)の著書『エミール』のことば)
 - ・〔⑭〕(境界人・周辺人)…「もう子どもではない」が「まだ大人ではない」状態(ドイツの心理学者〔⑮〕)のことば)
- (3)青年期の課題
- 〔⑯〕…発達段階に応じて達成すべき課題
- ・〔⑰〕…アメリカの心理学者。乳幼児期から老年期までの6段階の課題を指摘。青年期では親からの情緒的独立の達成、結婚と家庭生活の準備などの課題を示した
 - ・〔⑱〕…アメリカの精神分析学者。自己の主体性確立が青年期の課題であり、そのためには社会的責任を猶予する**心理・社会的**〔⑲〕が必要だと考えた
→心理学者の小此木啓吾は、この猶予期間の居心地のよさに甘え、大人になることを先延ばししようとする現代の青年を〔⑳〕とよんだ

3 自我の発見と自己形成

- (1)自我の目覚め…青年が自分は自分なのだとすることを自覚し始めること
- a. 〔㉑〕…自分を他人や世界から区別された独自の存在であるとする意識
→ドイツの教育学者〔㉒〕は、「青年ほど、深い孤独のうちに、触れあいと理解を渴望している人間はいない」と述べた
- b. 〔㉓〕(ユース=カルチャー)…青年特有の意識や行動から生みだされる文化。大人文化に対する対抗文化、伝統的な全体文化に対して下位文化(サブカルチャー)ともよばれる
→既成の文化や価値を否定するが、新たな文化創造の原動力となる可能性を秘めている
⇒青年期は**自我の目覚め**によって内面世界が深まり、〔㉔〕が行われる重要な時期
- (2)友情と恋愛
- a. 友情…互いの理解とともに、思いやりと信頼に裏づけられた人間関係
- b. 恋愛…互いの好意とともに、思いやりと責任に裏づけられた幸福に結びつく人間関係
- (3)アイデンティティの確立…自分が自分であることを確信すること
- ・〔㉕〕の**確立**…アメリカの精神分析学者〔㉖〕は、これを〔㉗〕(人生周期)における青年期の課題であるとした
 - ・〔㉕〕の**危機(拡散)**…現代の青年は、自己の確立の過程で挫折して、生きることへの不安や空虚感にとらわれることも少なくない
- (4)欲求と防衛機制
- a. 欲求…人間が生きていくために行動を起こす原因となるもの
- ・〔㉘〕**欲求(一次的欲求)**…食欲・性欲・休息欲などの本能的な欲求
 - ・〔㉙〕**欲求(二次的欲求)**…愛情や承認などを求める社会的な欲求
- b. 〔㉚〕(フラストレーション)…欲求が満たされないうちに生じる不安やいらだち
- c. 〔㉛〕(コンフリクト)…二つ以上の欲求が対立したときに生じる板ばさみの状態
- ・**接近—接近型**…かなえたい欲求が複数存在し、すべてをかなえることができない状態
 - ・**回避—回避型**…避けたい欲求が複数存在し、すべてを避けることができない状態
 - ・**接近—回避型**…かなえたい欲求と避けたい欲求が同時に存在する状態
- d. 適応…自然環境や社会環境に自分を適合させること
- ・〔㉜〕…適応に向けて筋道立てた努力による解決
 - ・〔㉝〕(攻撃反応)…手段や方法を選ばない衝動的な行動
 - ・〔㉞〕…無意識に自分を守ろうとする心の働き(〔㉟〕)の理論)

〔㉟〕	罪の意識や責任を感じないように、欲求を抑えこんでしまう
合理化	欲しい物が得られないとき、理由をつけて自分を納得させる
同一視	小説の主人公などに自分を同化させて満足させる
〔㊱〕	自分が敵意を持っているのに、自分がにくまれていると思ひこむ
〔㊲〕	自分が望んでいるのとは反対の行動を取ろうとする
逃避	苦しい場面に遭遇したとき、気持ちや身体が逃げだしてしまう
退行	弟妹が生まれたとき、親の愛情を得ようとして幼児期の行動を取る
置き換え	〔㊳〕 獲得できなかった欲求の対象に代えて、別の物で満足する
	〔㊴〕 失恋の痛みなどを社会的に価値あるものに情熱を向け代替する

⇒社会心理学者〔㊵〕は、現実の束縛から逃避したり、不満をぶつけたりするのではなく、人生の目標の達成に向けて創造的に生きることを強調した

(1)個性化と社会化

a. 個性…その人が持つ他の人と異なった性質

b. 〔41〕(人格)…その人の全体的・統一的な性質

—能力・性格・気質の三つの要素からなる

・さまざまな学者による性格分類

〔42〕 (体型によって三つに分類)	分裂気質(細長型)	真面目で物静か
	躁鬱気質(肥満型)	社交的で現実的
	粘着気質(闘士型)	几帳面で義理がたい
〔43〕 (心のエネルギーの向きによって二つに分類)	内向型	興味や関心が自分の心のなかに強く向けられ、非社交的で、表にあらわれる行動は控え目で消極的
	外向型	積極的・活動的で、周囲の人々や事柄に強い興味や関心を示し、他人とも気軽にうちとける
〔22〕 (価値観によって六つに分類)	理論型	学問的真理の探究に価値を置く
	経済型	金銭や経済効率に価値を置く
	審美型	芸術的な美しさや調和に価値を置く
	社会型	奉仕活動など社会のために尽くすことに価値を置く
	権力型	他者を支配し統率することに価値を置く
	宗教型	神や超越的な存在者への信仰に価値を置く

→〔41〕は、遺伝的要素を含みつつも、教育や努力などの後天的な影響を受けて形成される。その形成過程では、自分らしさの獲得(〔44〕)と、社会の成員としての行動様式の獲得(〔45〕)の両側面が調和して発達することが重要

(2)生きがいの探求

a. 生きがい…生きている実感や手ごたえ

・〔46〕…『生きがいについて』を著した精神科医。ハンセン病療養所での勤務体験をもとに、人間の生きがいとは何かを追究した

・生きがい感(生きがいを感じる心)の特質…未来に向かう心の姿勢がある、自我の中心に迫っている、価値の意識が多く含まれている

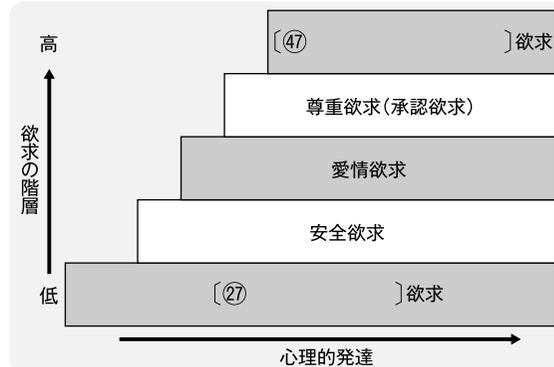
・生きがい感の問題点…自尊心の昂揚による思い上がりが忍び込みやすい、使命感が視野を狭めて反省機能を鈍らせる

b. 〔47〕…自己の可能性

を發揮し、より価値ある人生を創造しようとする事

・シュタイナー…ドイツの思想家・教育家。「あまりに人間が自分自身を考察しすぎることに終始していると、確実に瞑想的エゴイズムに陥る」と警告した

・〔48〕…アメリカの心理学者。〔47〕欲求を人間の最高の欲求であるとした(欲求階層説)



問題演習

— 1・現代に生きる自己の課題

1. さまざまな人間観についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① スウェーデンの植物学者リンネは、みずからの力や理解を超えた存在を畏れ敬うという点で、人間をホモ=ルーデンスと規定した。
- ② ドイツの哲学者カッシーラーは、言語や文字をあやつり、コミュニケーションをはかるという点で、人間をホモ=サピエンスと定義した。
- ③ オランダの歴史学者ホイジンガは、論理的思考や推論を行うことができるという点で、人間をホモ=レリギオースと名づけた。
- ④ フランスの哲学者ベルクソンは、道具を使って自然にはたらきかけ、みずからの住みやすい環境につくり変えるという点で、人間をホモ=ファーベルとよんだ。

2. 青年期の特徴についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ルソーは、人間は一度は生存するために生まれ、二度目は生きるために生まれると語り、その著書『エミール』のなかで、「第二の誕生」について言及している。
- ② 第二反抗期とは、自我の目覚めにもなって自己主張や自分を理解してほしいという欲求が高まっている青年が、親や大人の無理解や抑圧的な態度に反抗的になる時期のことである。
- ③ ホリングワースは、青年が親からの保護や監督から離れて、一人の独立した人間になろうとする衝動にかられることを社会化とよんだ。
- ④ 青年が情緒不安定になる一因として、レヴィンのいう「もう子どもではない」が、「まだ大人ではない」という境界人としての特性があげられる。

3. 若者文化についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 若者の激しい自己主張から生みだされるため、独りよがりな面が多く、創造性に乏しい。
- ② 大人文化への対抗的な意味を含むため、大人たちに受け入れられることはない。
- ③ 大人社会への反発や抵抗から生みだされるため、コマーシャリズムに乗りにくい。
- ④ 上位文化としての伝統的な全体文化に対して、下位文化ともよばれる。

4. アイデンティティの確立についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アイデンティティの確立とは、自分が自分であることを確信することであり、第二次性徴によって意識される男らしさや女らしさとは無関係である。
- ② エリクソンは、アイデンティティの確立をライフサイクル(人生周期)における青年期の発達課題であると指摘した。
- ③ アイデンティティの確立には時間がかかるため、青年はいっさいの社会的責任や義務が免除されており、その免除期間のことをモラトリアムという。
- ④ 自分で自分のことがわからないといった状態がアイデンティティの危機(拡散)とよばれるが、そこには将来自分が何になりたいのかわからないといった未来のことは含まれない。

5. 欲求についての事柄とそれに関連する語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① マズローの説く最高欲求 — 自己実現欲求
- ② 愛情・承認を求める欲求 — 生理的欲求
- ③ 欲求不満の無意識的解決 — フロムの理論
- ④ 筋道立てた欲求の充足 — 近道反応

センター試験に挑戦!

6. レヴィンらによる葛藤の4類型A～Dと、日常生活での葛藤場面ア～エとの組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 [11 本試]

- A 接近—接近の葛藤：叶えたいと思う複数の対象が同時に存在し、すべてを叶えることはできない場合に起こる葛藤
- B 回避—回避の葛藤：避けたいと思う複数の対象が同時に存在し、すべてを避けることはできない場合に起こる葛藤
- C 接近—回避の葛藤：一つの対象に叶えたい要素と避けたい要素とが併存している場合に起こる葛藤
- D 二重接近—回避の葛藤：二つの対象が同時に存在し、そのおのおのに叶えたい要素と避けたい要素とが併存する場合の葛藤

ア 密かに思いを寄せていた人と友人が結婚することになり、スピーチを頼まれて断りたいが、友人に不審がられそうで、断るに断れず悩んでいる。

イ 第一志望の学部はあるが遠隔地のため親が反対するA大学と、地元にあるが第一志望の学部のないB大学と、どちらを受験しようか悩んでいる。

ウ 雇用条件が良くて安定した会社の入社試験と、もともと入りたかった劇団のオーディションと、どちらを受けるべきか悩んでいる。

エ 憧れの先輩がいるクラブに入部しようと思っていたが、練習がとても厳しく時間も長いと聞き、入部すべきかどうか悩んでいる。

- ① ア—C イ—A ウ—B エ—D
- ② ア—B イ—A ウ—D エ—C
- ③ ア—D イ—C ウ—A エ—B
- ④ ア—A イ—C ウ—B エ—D
- ⑤ ア—B イ—D ウ—A エ—C
- ⑥ ア—A イ—D ウ—C エ—B

7. 防衛機制の事例として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

① 反動形成：私は彼のことが好きなのだけれど、彼のそばにいと知らず知らずのうちに彼に冷たくしたり、意地悪を言ったりしている。

② 逃避：出展した作品が落選した彼は、あれは小さな展覧会だったから初めから落ちてもいいと思っていたと言っている。

③ 昇華：彼女が書いた詩は、みずみずしさに溢れていたが、これは彼への思いを打ち明けられなかった彼女なりの表現方法だったのだろう。

④ 投射：彼はクラスのある子を嫌っているのに、彼自身は自分がその子に嫌われていると思ひこんでいるようだ。

8. パーソナリティについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

① パーソナリティを構成する能力・性格・気質は、それぞれに遺伝的な要素を含んでおり、その形成過程において後天的な影響を受けることはない。

② クレッチマーは、学者の多くは理論型であり、音楽や絵画に強い関心を持つ人は審美型であるというように、人の価値観によって性格分類を行った。

③ ユングは、心のエネルギーの向きによって、性格を内向型と外向型に分類したが、それぞれに長所と短所があり、どちらがすぐれているとは一概にはいえない。

④ パーソナリティとは、とくにその人が他の人と異なった性質を持っているという点を強調するときに使われることばで、その人の全体的・統一的な性質を示す個性とは異なる。

センター試験に挑戦!

9. 人間関係のあり方に関連するさまざまな用語の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 [08 追試]

① 外向型(外向性)：フロイトによって分類された性格類型で、心のエネルギーが外に向かいやすいため、他者に関心を持ち、陽気かつ社会的で交際範囲が広い性格

② やまあらしのジレンマ：他者と距離が遠すぎると孤独になり、近すぎても摩擦や衝突を起こすなど、他者との適度な距離を保とうとすることによって起こる人間関係の葛藤

③ 他人指向型：リースマンによって名づけられた性格類型で、大衆社会における孤独と不安から、他者による承認を強く求め、その評価基準に身を委ねて他者に従う性格

④ 仮面をかぶった人間関係：自分が傷つくことをおそれるあまり、本音を隠して偽りの仮面をかぶり、他者に過度に同調することで表面的になってしまう人間関係

10. 自己理解の手がかりとなるA～Dの用語と、具体例ア～エとの組合せとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 [11 本試]

- A 自己実現 B 自我意識 C 自己愛 D 自我同一性

ア 私は子どものころ、自分は家業に全く向いていないと思っていたけれど、仕方なしに手伝い始めた家業にいつの間にか打ちこむようになっていた。最近ではそれが自分に向いているのではないかと感じ始めている。

イ 私と接した人はみんな私を好きになるようだ。しかし、私が友人たちのように簡単に恋人を作ったりしないのは、私に釣り合うような相手が身近にいるとは思えず、自分を大切にしたいからだ。

ウ 私は内気で気の利かない人間だと思っているが、友人からは思慮深くて信頼できる人だと言われた。友人の意見をきっかけに、私という人間について改めて考えるようになった。

エ 私は、大学病院の看護師として勤務しているが、将来は医療の恩恵を受けにくい離島や発展途上国で働きたいと考えている。そのために、現地で求められる看護技術や知識について、もっと研鑽を積んでゆきたい。

- ① ア—A イ—D ウ—B エ—C
- ② ア—D イ—C ウ—A エ—B
- ③ ア—B イ—A ウ—C エ—D
- ④ ア—D イ—C ウ—B エ—A
- ⑤ ア—C イ—B ウ—D エ—A
- ⑥ ア—A イ—D ウ—C エ—B
- ⑦ ア—C イ—A ウ—B エ—D
- ⑧ ア—B イ—C ウ—D エ—A

次のある大学生の「自分史」を読み、以下の問いに答えよ。

私は、乳児期のころはよく寝る子で育てやすかったと、いつも母は言う。幼児期では「お父さん子」だったらしく、^(a)タバコを吸う父のまねをしたり、父が仕事で遅くなる日はいつまでも起きて待っていると張り張ったりしたようだ。そして、私が5歳になったときに妹が生まれた。両親の意識が妹に向くようになって、私はそれまで一人でできていた歯磨きが突然できないと泣いたときがあったらしいが、これは防衛機制でいう(①)だったのである。

小学校では、3年生になったときに、地域の少年野球チームに入ることになった。現在の私という人格を形成している要素の一つは、この少年野球チームでのさまざまな出来事から得たものだと思う。たとえば、私はよく我慢強い性格だといわれる。この性格にも、毎年5月の連休がやってきたときに、父が「一日くらい練習を休んで、どこかへ行こう」と誘ってくれても、父の提案と心のなかで闘いながら、結局は一日も休まず練習を続けたことなどが影響しているのかも知れない。

しかし、中学生になった私は野球から離れることになった。その原因は、テレビで見た、あるストリートミュージシャンの姿だった。アコースティックギターで弾き語りをする彼の姿に魅入られ、私は部員数の少ない音楽部に入部したのである。運動系から文化系への大転換であった。小規模なクラブではあったが、ここでも多くのことを学んだ。その一つに、音に対する感性とことばに対するこだわりがある。これが、現在、私が大学で言語学を学ぶきっかけを与えてくれたのである。もちろん、その当時は、こうした^(b)将来の進路が見えていたわけではない。高校へ行ったら、ギター部かマンドリン部に入部しようと考えていたくらいのことである。また、中学生時代の大きな出来事として、小さいころからよくかわいがってくれた父方の祖母が亡くなったことがある。祖母は、初孫だった私をほんとうによくかわいがってくれた。そんな祖母の口癖は、「私はあんたがいてくれたから、おばあちゃんになれたんよ」ということばであった。今思えば、これにはアメリカの精神分析学者(②)のいう^(c)ライフサイクルの考え方に通じるものがあった。

そして、高校へ入学した私は、マンドリン部に入部した。そのころには、中学生時代にあった親への反抗もだいぶ収まってはいたが、クラブの練習や友だちとの話が長引いて帰宅が遅くなった時などは、母親の小言に対して始終口答えをしていた。そして、^(d)自我意識が高まり、理想論を掲げては父親と言い争いをし、「お前は若いなあ」と肩すかしを食らうことも少なくなかった。しかし、大学生になった今でも、青年には理想こそが必要であり、理想こそが青年を未来へと向かわせるエネルギーであると信じている。

そして、今は大学3年生である。第一志望を変えずに貫き通し、一年間浪人することにはなったが、志望していた大学に進学することができた。クラブは、大学の体育会系は厳しいと聞いていたので、準硬式野球の同好会に入った。クラブ紹介を回っているうちに、もう一度野球をやってみたくなったのだ。あと一年半ほどで卒業だが、当面の目標は外国の大学に留学することで、将来は研究者になりたいと考えている。私の性格は、ドイツの教育学者(③)のいう「理論型」ということなのだろう。いずれにしても、^(e)20歳を過ぎてひとまず成人ということにはなっているが、^(f)まだまだ大人になりきれていない自分を感じている。しかし、将来の夢は堅実に実現させていきたいと思っている。

問1 空欄(①)～(③)に適する語句を答えよ。

①	②	③
---	---	---

問2 下線部(a)のような行為は、防衛機制では何というか答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、将来が展望できない状態は青年期の特徴であるが、自己の確立の過程で挫折してしまい、不安や空虚感にとらわれた状態を何というか答えよ。

問4 下線部(c)についての記述として**適当でないもの**を、次のア～エのうちから一つ選べ。

- ア. 人はライフサイクルのなかで、発達段階ごとの課題を達成していく。
- イ. 人はライフサイクルのなかで、世代間の交流をはかっていく。
- ウ. 人はライフサイクルのなかで、昇華を達成していく。
- エ. 人はライフサイクルのなかで、自己実現をはかっていく。

問5 下線部(d)に関連して、下の文中の空欄(A), (B)に適する語句を、次のア～エのうちから一つずつ選び記号で答えよ。

- ア. 生きる イ. 働く ウ. 学ぶ エ. 生存(存在)する

われわれはいわば、二度生まれる。一度は(A)ため、二度目は(B)ために。一度は人類の一員として、二度目は性を持った人間として。

A	B
---	---

問6 下線部(e)に関連して、下の文中の空欄(A)～(E)に適する語句を、次のア～クのうちから一つずつ選び記号で答えよ。

- ア. ハヴィガースト イ. イニシエーション ウ. 社会化 エ. レヴィン
 オ. モラトリアム カ. アイデンティティ キ. マージナル=マン ク. 発達課題

心理学者(A)は、青年を子どもと大人の周辺に位置する(B)とよんだ。社会構造が単純な社会では(C)をへて、すぐ大人の仲間入りをするが、社会構造が複雑な現代の先進国社会では、社会のルールや慣習を学ぶための(D)の過程が長引き、大人への準備期間である(E)が長期化する傾向にある。

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

問7 下線部(f)について、近年、青年期は延長される傾向にあるといわれているが、その理由を「第二次性徴」、「発達課題」という二つの語句を必ず用いて、簡潔に説明せよ。